

<p>学校経営方針</p>	<p>「行きたい」「行かせたい」「来てよかった」と思える魅力ある学校づくり ～「夢」「希望」そして「挑戦」～</p> <p>本校では、将来の目標を見据えて、常に高い志をもって行動できる生徒の育成に重点を置いている。そのために、生徒各自の「夢」「希望」そして「挑戦」をキーワードとして、生徒自らが主体的に取り組む態度を育成する。その取組を通して、中学生にとって「行きたい」、保護者にとって「行かせたい」、在校生や卒業生にとって「来てよかった」と思える魅力ある学校づくりに努める。</p>	<p>総合評価</p> <p style="font-size: 48px; text-align: center;">B</p>
<p>前年度の成果と課題</p>	<p>これまで、生徒の実態に合わせながら、充実した施設設備を最大限に活用し、創造的で独創的な多くの取組を積極的に実践することによって、①『学校の魅力づくり』及び②『入学希望生徒の確保』を学校経営の主眼点とし、学校の活性化に取り組んできたが、地元五條市域等の少子化の進行で今後の不安定要素が一層大きくなっている。 また、平成19年度からスタートした「まなびの森コース」について、一定の成果を上げてきたが、魅力あるコースづくりを更に推進するため検討を加える必要がある。</p> <p>導入から10年を経過したスクールバスの運行をはじめ、教育相談スーパーバイザーの単独配置による教育相談体制の構築、学校運営協議会の設置によるコミュニティ・スクールの取組及びグラウンド人工芝生化による施設・設備の充実等、10年後を視野に入れた新しい学校改革に向けて、積極的な取組を進めてきたが、今後とも、現状の課題を整理しながら、生徒・保護者の期待に応えるべく、学力の向上を図るなど更なる改善・充実を図る必要がある。</p>	

<p>本年度の重点目標</p>	<p>評価の指標等</p>	<p>自己評価</p>	<p>成果と課題 ( )内は昨年度数値</p>	<p>改善方策等</p>	<p>学校関係者評価</p>
<p>具体的目標 ○主な具体的方策（担当）</p>					
<p>I 魅力ある進路実現 進学指導をはじめ、魅力ある進路実現への対応</p>					
<p>① わかる授業の展開（授業力の向上） ○ 学習活動の工夫を図る。（教務部）</p>	<p>・生徒アンケート「五條高校では授業の方法が自分に適している、内容がよく理解できそうである」 本年度&lt;目標:70%以上&gt;</p> <p>・保護者アンケート「五條高校で行われている授業の内容や進め方に満足している」 本年度&lt;目標:75%以上&gt;</p>	<p>B</p> <p>A</p>	<p>→本年度&lt;結果:63.5%&gt; (63.3%)</p> <p>→本年度&lt;結果:85.0%&gt; (83.7%) ・保護者の満足度で目標数値をクリアしたが、生徒アンケートは昨年度とほぼ同じ数値で、目標に届かなかった。 ・一部の授業で習熟度別・少人数指導を導入しているが、ますます多様化する生徒に対して、更なる授業改善を含めた工夫が必要である。</p>	<p>・生徒・保護者の授業満足度を向上させるため、身に付けさせたい力を明確にし、更に授業改善に取り組む。 ・生徒の進路実現を念頭におき、生徒の主体的な学びにつなげる授業展開、課題、小テスト等、学力養成の方策を各教科で検討する。また、実力テスト等の結果を分析し、取組の検証を行う。 ・本校の学習活動について、ホームページ等を通じて保護者に周知する。</p>	<p>承認（※）</p> <p>※ 令和2年3月3日に、第2回運営協議会を開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、中止とした。 本資料に関しては、同年2月18日付けて各委員に発送しており、この間、各委員から特に御意見はなかった。 したがって、学校関係者評価は「承認」として扱うこととする。</p>
<p>② 「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善 ○ 授業と評価の改善、指導力向上を推進する。（教務部）</p> <p>○ 読書活動の活性化を図る。（文化図書部）</p>	<p>・授業アンケートにおいて、1学期末の評価より2学期末の評価が向上した教員の割合の増加 本年度&lt;目標:70%以上&gt;</p> <p>・教員アンケート「五條高校では、研究授業など、授業改善に向けた取組が活発に行われている」 本年度&lt;目標:75%以上&gt;</p> <p>・「読書の時間」を(月)と(木)のSHRに7分設定し、考査後1週間は、全ての日で実施。読書の習慣を身に付けさせる取組の推進</p>	<p>B</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>→本年度&lt;結果:67.3%&gt; (71.4%)</p> <p>→本年度&lt;結果:94.2%&gt; (84.6%) ・目標にわずかに届かなかった項目もあったが、特に、2項目が目標を大きく越えて達成できた。 ・指導主事を招いた研究授業や各教科による授業公開のほか、公開授業も学期に1回以上行い、教科を超えた授業研究を行うことができた。</p> <p>・「読書の時間」は計画通り実施できたが、読書への取組が不十分な生徒も見受けられた。「読書HR」用の集団読書テキストの利用は活発であった。</p>	<p>・研究授業、他教科の授業参観については、主体的・対話的で深い学び（いわゆるアクティブラーニング）や観点別評価を視野に入れながら、次年度も継続する。 ・授業改善に向けた取組が更に活発になるよう、これまでの本校の取組を継続する。</p> <p>・学級文庫を更に充実させて読書に親しむ習慣を身に付けさせる。さらに生徒によるPOPカード作りや教員による推薦図書紹介を充実する。</p>	
<p>③ 進路保障に関わる取組の充実 ○ 計画的・系統的な進路指導を行う。（進路指導部） ○ 望ましい勤労観、職業観を身に付けさせる。（進路指導部） ○ 生徒一人一人の進路の実現に向けて、明確な目的</p>	<p>・生徒アンケート(第3学年)「自分の希望する進路実現ができた」 本年度&lt;目標:90%以上&gt;</p> <p>・生徒アンケート(全学年)「五條高校では、生徒一人一人の進路に応じて、丁寧な指導が行われている」</p>	<p>B</p> <p>B</p>	<p>→本年度&lt;結果:89.1%&gt; (90.1%)</p>	<p>・学力育成のために各教科・学年との連携を更に進める。 ・進路閲覧室の利用促進を図り、生徒自らも自己の進路を積極的に考</p>	

意識をもって学習に取り組ませる。(進路指導部)	本年度<目標:85%以上>		→本年度<結果:76.7%> (77.9%) ・3学年で「希望する進路実現ができた」生徒は89.1%であった。 ・「丁寧な進路指導」は76.7%で前年並みであるが、目標には遠い数字であった。相談体制を整え、生徒それぞれの希望に添った進路指導と適切な助言が必要である。 ・進路講習は各教科・学年からの協力を得て実施できた。	えることができるように指導する。 ・2学年3学期を3学年ゼロ学期と捉え、希望進路決定に向けた学力育成を図る。
2 充実した学校生活 学校行事の充実と部活動の活性化				
① 学校行事の精選と内容の充実 ○ 体育活動を積極的に取り組む姿勢を養う。(保健体育部)  ○ 文化行事の充実を図る。(文化図書部)  ○ 異文化理解を推進する。(総務部)	・各体育行事の目標参加率 本年度<目標:95%以上>  ・文化祭2日間の欠席者数 本年度<目標:10人以内>  ・本校よりの短期研修において、安定した参加人数の確保 本年度<目標:12名以上>	A  B  A	→本年度<結果:99.5%> (95.0%) ・球技大会、体育大会参加率それぞれ99.6%、99.3%と新種目を実施し、充実を図った。目標数値は達成したが、これからも種目の検討は必要である。  →本年度<結果:延べ15人> (延べ25人) ・文化祭は3部門での発表を盛大に実施できた。欠席は2日間で延べ15人であった。展示・演技部門で趣向を凝らした作品が多かったが、体育館行事は猛暑で健康面が懸念された。 ・カルタ大会やおはなし会も盛況であった。カルタ大会は文化委員・放送部員によって運営され生徒が主体的に活動できるものとなっている。  →本年度<結果:12人> (7人) ・本年度の参加は12名となり、事前学習にも十分な時間をとっている。 ・3名の短期研修生が来校し3家庭がホームステイを受け入れたが、受け入れ家庭の確保が難しい。 ・ホームステイ受け入れ家庭では家族ぐるみで関わりをもち、受け入れクラスの生徒も積極的に関わることができた。	・生徒の実態を踏まえ、現行の競技だけでなく色々な種目を設定する。また実施する競技の数も厳選する。  ・文化祭の展示・演技部門の内容及び鑑賞方法について検討し、生徒がより積極的に参加できるようにする。芸術鑑賞会については現状では実施が難しく、実施日や会場について今後検討を重ねていく。 ・両会の実施方法についても再検討し、意義深いものにする。  ・短期研修や交流会の成果を積極的に発信する。 ・長年培ってきた姉妹校関係を今後も継続し国際交流を推進するために、更に生徒や保護者に働きかける。 ・短期研修のホームステイ受け入れ家庭の確保に努める。
② 部活動加入率の向上 ○ 生徒会活動や部活動を積極的に奨励し、生徒の主体的活動を促進する。(生徒指導部)	・生徒アンケート「五條高校の生徒会活動は活発で、関心がもてる内容である」 本年度<目標:80%以上> ・部活動加入率 本年度<目標:80%以上>	B B	→本年度<結果:60.0%> (56.3%) →本年度<結果:76.3%> (75.3%) ・生徒会活動に関するアンケート結果は、60.0%と昨年度の56.3%からは上昇したが一昨年度の72.0%には及ばない。ただ、オープンキャンパスのために生徒会が作成したDVDなどは秀逸のできて、生徒会活動が目に見える形で残すことができた。 ・部活動加入率は、76.3%と昨年度の75.3%、一昨年度75.9%とここ3年間は横ばいである。	・全校生徒が生徒会の一員であるという自覚をもたせ、執行部を中心に様々な活動を行う必要がある。 ・生徒会執行部、クラブ員、生活委員などを更に活用して挨拶の励行活動を行ってほしい。
3 安心して通える(通わせる)ことができる学校づくり きめ細やかな生徒への対応と生徒指導の充実				
① 日頃から生徒及び保護者との関わりを大切にする ○ 生徒の人権意識を高める。(人権教育部)	・毎月の「人権を確かめあう日」に生徒・保護者向けの啓発文書の発行 本年度<目標:年10回以上>	A	→本年度<結果:年10回> (10回) ・生徒・保護者向け啓発文書を10回発行した。 ・各分掌が作成し、多くの先生が携わった。	・保護者からの返信は5月以降ほとんど無く、文書が保護者により多く届くよう工夫する。
② 共通理解、同一歩調、全校体制で指導にあたる ○ 教育相談体制を確立する。(生徒指導部)	・生徒アンケート「五條高校の先生は親身になって接してくれ、気軽に相談できる」 本年度<目標:75%以上>	B	→本年度<結果:66.2%> (66.2%) ・生徒アンケートの結果が、昨年度62.2%から	・引き続き、生徒と粘り強く関わり、話を聞くということを継続してい

<p>○ 職員の人権意識の資質向上を図る。(人権教育部)</p>	<p>・年1～2回外部から招聘した講師による研修会の実施</p>	<p>B</p>	<p>今年度66.2%と上昇したが、目標には達しなかった。業務の多様化に伴い、生徒と実際に接する時間をいかに確保していくかが今後の課題である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ストレスマネジメントの講習やコミュニケーションスキルに関するHRの成果は徐々に出てきている。</li> <li>・人権教育部主催の研修会は実施できなかったが、3年生の「デートDV」HRのため講師を招聘した。</li> <li>・各種研究大会及び研修会に積極的に参加した。</li> </ul>	<p>くとともに、カウンセラーや保護者、さらには児童相談所や医療機関などの外部との期間との協力を密にしていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様性に応じた一人一人を大切に取る取組を継続する。</li> <li>・先生方の自主的な研修への参加を促す。</li> </ul>
<p>4 外部との連携・情報発信の強化</p>				
<p>① 地域と共にある学校づくりの推進 ○ 地域との連携を深める。(広報企画部)</p> <p>② 人工芝グラウンド活用による諸活動の活性化 ○ 小・中学校、地域への開放を進め、人工芝グラウンドを活用するイベントを開催する。(全分掌)</p>	<p>・近隣小中学校への案内を充実させ、より多くの参加者の獲得 <u>本年度&lt;目標:120名以上&gt;</u></p>	<p>B</p>	<p>→本年度&lt;結果:85人&gt; (169人)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「五高スポーツ教室」「五高カルチャー講座」(中学生)は延べ85名、コットンプロジェクトの参加者(小学生)は31名(1月末現在)であった。</li> <li>・市内小中学校運動会、新町きつねの森フェス、御霊神社天平行列等のボランティアに、クラブ員や生徒会役員を中心に約120名の生徒が参加した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラブ員や有志の生徒が主体的に活動することにより、小中学生はもちろん、高校生にとっても有意義な内容とする。</li> <li>・ボランティア活動が進路をはじめ様々な面で自分にプラスになることを啓発し、有志の参加を増やす。</li> </ul>
<p>③ ホームページ等による効果的な広報活動の推進 ○ 学校ホームページや掲示板等を充実させる。(広報企画部)</p>	<p>・年間更新回数を増やし、情報のタイムリーな発信 <u>本年度&lt;目標:120回以上&gt;</u></p>	<p>A</p>	<p>→本年度&lt;結果:200回&gt; (130回)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1月末現在の更新回数は200回を超えており、学校行事や部活動結果などの情報をこまめに発信した。</li> <li>・保護者アンケートにおいて、本校ホームページを「よく見ている」「ときどき見ている」は49.0%であった(昨年43.0%)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各分掌ホームページ系の協力で更新回数を増やすことができた。来年度も撮影、写真の選考等で協力をお願いしたい。</li> <li>・タイムリーな更新と内容の充実を図る。</li> </ul>
<p>○ 中学生やその保護者を対象に五條高校の魅力を情報発信する。(広報企画部)</p>	<p>・オープンキャンパスで、これまで以上に中学校や保護者へ情報発信し、より多くの参加者の獲得 <u>本年度&lt;目標:300名以上&gt;</u></p>	<p>B</p>	<p>→本年度&lt;結果:354人&gt; (269人)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年もプロのデザイナーに依頼して作成したものを、中学校訪問等で活用した。</li> <li>・本年度参加者は中学生と保護者等を合わせ354名(昨年269名)で、参加者アンケート結果も好評であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の魅力を伝える写真データを多く収集、作成する。</li> <li>・中学校へ情報発信を増やし、当日の内容を更に魅力あるものにする。</li> </ul>
<p>5 学校改善のための組織的取組</p>				
<p>① コミュニティ・スクール(学校運営協議会)の取組による学校改革と諸活動の最適化(全分掌)</p>	<p>・地域と学校の連携・協働の推進 ・地域の事業所でのインターンシップ体験による適切な進路選択 ・地域の方と共に行う教育活動</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会全体会2回、全日制部会2回開催</li> <li>・地域の行事に、多くの生徒が有志・生徒会役員・クラブ員として参加した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティ・スクールの取組を推進する分掌を設置。今後とも、学校・家庭・地域が一体となった協働関係の構築を図る。</li> </ul>
<p>② 個々の生徒の強みを生かした進路実現における方策の開発 ○ 進路指導に関する情報収集と情報提供を行い、教員の指導力を高める。(進路指導部)</p>	<p>・職員研修の開催 <u>本年度&lt;目標:全体・学年ごとに合わせて総数5回以上&gt;</u> ・進路に関する配布物・回覧物による情報提供 <u>本年度&lt;目標:総数10回以上&gt;</u></p>	<p>A</p>	<p>→本年度&lt;結果:6回&gt; (8回)</p> <p>→本年度&lt;結果:35回&gt; (40回)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員研修は全体会2回、学年等4回実施できた。</li> <li>・配布物・回覧物による情報提供は、進路情報雑誌等16回、校外研修会等19回であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一方的な講師からの説明といった職員研修の形式を変更する。</li> <li>・外部研修の情報提供は継続して行い、参加を求める。</li> </ul>

各分掌等の評価計画

分掌等	具体的目標	具体的方策	評価の指標等	自己評価	成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
総務部	1-③/2-① ○ 異文化理解を推進する。	・オーストラリア・ガートン校との海外短期研修を円滑に行う。	・本校よりの短期研修において、安定した参加人数の確保 <u>本年度&lt;目標:12名以上&gt;</u> ・ガートン校よりの短期研修生のホームステイ受け入れ家庭の確保	A	A	・本年度の参加は12名となり、事前学習にも十分な時間をとっている。 ・3名の短期研修生が来校し3家庭がホームステイを受け入れたが、受け入れ家庭の確保が難しい。 ・ホームステイ受け入れ家庭では家族ぐるみで関わりをもち、受け入れクラスの生徒も積極的に関わることができた。	・短期研修や交流会の成果を積極的に発信する。 ・長年培ってきた姉妹校関係を今後も継続し国際交流を推進するために、更に生徒や保護者に働きかける。 ・短期研修のホームステイ受け入れ家庭の確保に努める。
	4 ○ 育友会・同窓会との連携を強化する。	・育友会・同窓会との連携を密にし、学校運営に対する協力・援助を求める。 ・育友会の諸行事の活性化を図る。	・育友会・同窓会の定例会に参加し、機会に応じて学校との交流 ・保護者アンケート「五條高校では、育友会活動が熱心に行われている」 <u>本年度&lt;目標:75%以上&gt;</u>	B		・育友会役員会・企画委員会を年間3～4回開催して意見交流を図り、良好な協力・支援関係を構築できた。 ・同窓会総会・理事会等に参加して学校との関係を密にし、有効な支援を得ることができた。 ・アンケート結果では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせて88.9%と、概ね熱心に行われているとの評価であった。 ・分掌内の育友会・同窓会の担当者を複数にすることで業務推進の強化ができた。	・各方面と更に連携して推進する。 ・育友会役員会・企画委員会の在り方を工夫し、更に学校運営に協力・支援してもらえる体制を作る。
	1-③ ○ 奨学金受付事務を円滑に実施する。	・生徒に各種奨学金の案内を行い、受付事務を円滑に進める。	・3年進学希望生徒に対して、日本学生支援機構奨学金及び各種奨学金の説明会の実施 <u>本年度&lt;目標:3回以上&gt;</u>	A		・3回以上の説明会及び個別説明を行い、日本学生支援機構奨学金については、149名の予約手続きを行った。 ・重要な個人情報を取り扱うための設備がなく機構との連絡も煩雑であり、物心ともに担当者の負担が大きい。	・今後もきめ細かい受付事務を実施する。 ・日本学生支援機構予約奨学金の申請手続きは生徒の家庭と機構の直接手続きとなるよう、機構に要望していきたい。
教務部	1-① ○ 学習活動の工夫を図る。	・生徒の基礎学力の向上を図る。 ・生徒の実態に応じた授業展開、教材開発を行う。	・生徒アンケート「五條高校で行われている授業や課題、小テスト等に取り組むことで、うまく学習を進めることができています」 <u>本年度&lt;目標:70%以上&gt;</u>	A	A	・生徒アンケート「うまく学習を進めることができています」が70.1%、「内容がよく理解できそうである」が63.5%（1学期末）。 ・保護者アンケート「授業の内容や進め方に満足している」85.4%（2学期末）。 ・目標に届かなかった項目もあったが、概ね目標を達成した。 ・一部の授業で習熟度別・少人数指導を導入しているが、ますます多様化する生徒に対して、更なる授業改善を含めた工夫が必要である。	・生徒・保護者の授業満足度を向上させるため、身に付けさせたい力を明確にし、更に授業改善に取り組む。 ・生徒の進路実現を念頭におき、生徒の主体的な学びにつなげる授業展開、課題、小テスト等、学力養成の方策を各教科で検討する。また、実力テスト等の結果を分析し、取組の検証を行う。 ・本校の学習活動について、ホームページ等を通じて保護者に周知する。
			・生徒アンケート「五條高校では授業の方法が自分に適していて、内容がよく理解できそうである」 <u>本年度&lt;目標:70%以上&gt;</u>	B			
			・保護者アンケート「五條高校で行われている授業の内容や進め方に満足している」 <u>本年度&lt;目標:75%以上&gt;</u>	A			
1-② ○ 授業と評価の改善、指導力向上を推進する。	・各教科の研究授業を年間1回以上行い、毎年2教科（輪番制）で指導主事を招いて実施する。 ・指導主事を招いた研究授業では、研究協議に教科の教員が全員参加できるよう努める。 ・他教科の任意の授業を参観する期間を設け、参観希望授業の集約や調整、時間割変更を確実に進行。	・授業アンケートにおいて、1学期末の評価より2学期末の評価が向上した教員の割合の増加 <u>本年度&lt;目標:70%以上&gt;</u>	B	A	・授業アンケートにおいて、1学期末の評価より2学期末の評価が向上した教員の割合が67.3%であった。 ・教員アンケート「授業改善に向けた取組が活発に行われている」が94.2%であった。 ・目標にわずかに届かなかった項目もあったが、特に、2項目が目標を大きく越えて達成できた。 ・指導主事を招いた研究授業や各教科による授業公開のほか、公開授業も学期に1回以上行い、教科を超えた授業研究を行うことができた。	・研究授業、他教科の授業参観については、主体的・対話的で深い学び（いわゆるアクティブラーニング）や観点別評価を視野に入れながら、次年度も継続する。 ・授業改善に向けた取組が更に活発になるよう、これまでの本校の取組を継続する。	
		・教員アンケート「五條高校では、研究授業など、授業改善に向けた取組が活発に行われている」 <u>本年度&lt;目標:75%以上&gt;</u>	A				

生徒指導部	<p>1-③ ○ 基本的な生活習慣を確立する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>挨拶や言葉遣い、身だしなみ、時間を守ること等、基本的な生活習慣を確立させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間欠席総数…昨年度比約10%以上の減少 30年度 3,458日 → 本年度&lt;目標:3,000日未満&gt;</li> <li>年間遅刻総数…昨年度比約10%以上の減少 30年度 1,008回 → 本年度&lt;目標:800回未満&gt;</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>1月23日時点で、欠席総数2,397日と昨年度より大幅減で目標を達成できそうである。</li> <li>1月23日時点で遅刻総数は786回なので目標達成の可能性は残っている。</li> <li>挨拶ができない生徒が以前に比べて増えている。</li> <li>携帯電話のマナー違反、SNS絡みのトラブルが増加している。今年度から授業中の携帯電話使用は特別指導としたが、4件の特別指導があった。</li> <li>昇降口指導の効果がそれほど上がっていないとの指摘があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>不登校生徒が減少し、ストレスマネジメントのHRや個人面談、カウンセラーの活用を含む教育相談の取組が効果をあげているのかもしれない。</li> <li>遅刻数の減少を見る限り校時変更に伴い、時間厳守、時間管理の重要性を訴えてきたが、一定の効果は見られる。</li> <li>次年度の向けて昇降口指導の在り方、実施方法について部内で現在検討中である。</li> </ul>
	<p>1-②、2-②、3-② ○ 生徒会活動や部活動を積極的に奨励し、生徒の主体的な活動を促進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会執行部の活動の活性化を図り、魅力ある実践活動を目指す。</li> <li>部活動加入に向けた取組を工夫し、部活動加入率を向上させる。</li> <li>各部に所属する生徒一人一人の所属感、使命感、活動意欲の高揚を図るため集会を開催する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケート「五條高校の生徒会活動は活発で、関心をもてる内容である」 30年度 56.3% → 本年度&lt;目標:80%以上&gt;</li> <li>部活動加入の増加 30年度 75.3% → 本年度&lt;目標:80%以上&gt;</li> <li>部員集会やキャプテン会議の開催 本年度&lt;目標:学期に1回以上&gt;</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会活動に関するアンケート結果は、60.0%と昨年度の56.3%からは上昇したが一昨年の72.0%には及ばない。ただ、オープンキャンパスのために生徒会が作成したDVDなどは秀逸のできて、生徒会活動が目に見える形で残すことができた。</li> <li>部活動加入率は、76.3%と昨年度の75.3%、一昨年度75.9%とここ3年間は横ばいである。</li> <li>部員集会は2回実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全校生徒が生徒会の一員であるという自覚をもたせ、執行部を中心に様々な活動を行う必要がある。</li> <li>生徒会執行部、クラブ員、生活委員などを更に活用して挨拶の励行活動を行っていききたい。</li> <li>3学期の開催は時間的に難しいので、それに代わる部活動活性化と活動性との自覚を促せる取組を考えたい。</li> </ul>
	<p>3-①② ○ 教育相談体制を確立する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育相談体制を整備して、支援を必要とする生徒（不登校傾向を示す生徒や特に困難な課題をもつ生徒等）やその保護者を対象に、外部機関と連携を図りながらカウンセリングを受ける機会を広げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題を抱える生徒の早期発見、早期対応、予防的な取組の実践</li> <li>当該生徒対象にケース会議を考査期間中に開き、対応の検討</li> <li>生徒アンケート「五條高校の先生は親身になって接してくれ、気軽に相談できる」 30年度 62.2% → 本年度&lt;目標:75%以上&gt;</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケートの結果が、昨年度62.2%から今年度66.2%と上昇したが、目標には達しなかった。業務の多様化に伴い、生徒と実際に接する時間をいかに確保していくかが今後の課題である。</li> <li>ストレスマネジメントの講習やコミュニケーションスキルに関するHRの成果は徐々に出てきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、生徒と粘り強く関わり、話を聞くということを継続していくとともに、カウンセラーや保護者、さらには児童相談所や医療機関などの外部との期間との協力を密にしていきたい。</li> </ul>
進路指導部	<p>1-③/4-③ ○ 計画的・系統的な進路指導を行う。 ○ 望ましい勤労観、職業観を身に付けさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集会や説明会等を行うことで、望ましい勤労観、職業観を含め、自己の進路について広く深く考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集会、説明会等の実施 本年度&lt;目標:10回以上&gt;</li> <li>上記実施状況について、ホームページによる情報発信 本年度&lt;目標:10回以上&gt;</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>校外の説明会・講習会は5回 校内のガイダンス・説明会・講習などは7回を実施。3学年では就職にともなう講習会を校内外それぞれ2回実施。インターンシップは4回実施。</li> <li>情報発信については6回行った。目標には達しなかったが、定期的に発信できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画的・系統的な進路指導を行うために「夢の扉」を活用する。</li> <li>集会、説明会は、各学年の進路志望の状況を把握し、それにできるだけ合った内容を検討する。</li> <li>説明会・ガイダンス等は後日、情報発信することを常に意識するよう努める。</li> </ul>
	<p>1-③/5-② ○ 生徒一人一人の進路の実現に向けて、明確な目的意識をもって学習に取り組ませる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路決定に向けたホームルーム活動や相談活動を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケート(第3学年)「自分の希望する進路実現ができた」 30年度85.8%(分母:進路決定者) → 本年度&lt;目標:90%以上&gt;</li> <li>生徒アンケート(全学年)「五條高校では、生徒一人一人の進路に応じて、丁寧な指導が行われている」 30年度 77.9% → 本年度&lt;目標:85%以上&gt;</li> <li>各学年進路講習の企画立案総数 本年度&lt;目標:5回以上&gt;</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>3学年で「希望する進路実現ができた」生徒は89.1%であった。</li> <li>「丁寧な進路指導」は76.7%で前年並みであるが、目標には遠い数字であった。相談体制を整え、生徒それぞれの希望に添った進路指導と適切な助言が必要である。</li> <li>進路講習は各教科・学年からの協力を得て実施できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力育成のために各教科・学年との連携を更に進める。</li> <li>進路閲覧室の利用促進を図り、生徒自らも自己の進路を積極的に考えることができるように指導する。</li> <li>2学年3学期を3学年ゼロ学期と捉え、希望進路決定に向けた学力育成を図る。</li> </ul>
	<p>1-③/5-② ○ 進路指導に関する情報収集と情報提供を行い、教員の</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路指導に関わる職員研修の機会を適宜もつ。</li> <li>進路指導に関する情報提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修会については、全体・学年ごとに合わせた総数 本年度&lt;目標:5回以上&gt;</li> <li>進路に関する配布物・回覧物による情報提供</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員研修は全体会2回、学年等4回実施できた。</li> <li>配布物・回覧物による情報提供は、</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一方的な講師からの説明といった職員研修の形式を変更する。</li> </ul>

	指導力を高める。	を行う。	本年度<目標:10回以上>		進路情報雑誌等16回、校外研修会等19回であった。	・外部研修の情報提供は継続して行い、参加を求める。	
人権教育部	3-② ○ 職員の人権意識の資質向上を図る。	・人権教育推進に関する職員研修会を実施する。 ・各学年に研修会等への参加を依頼する。	・年1～2回外部から招聘した講師による研修会の実施 ・研究会、学習会への積極的な参加	B	B	・人権教育部主催の研修会は実施できなかったが、3年生の「デートDV」HRのため講師を招聘した。 ・各種研究会及び研修会に積極的に参加した。	・多様性に応じた一人一人を大切に取る取組を継続する。 ・先生方の自主的な研修への参加を促す。
	1-② ○ 人権教育・道徳教育の充実を図り、人間としての在り方生き方を大切にする生徒を育てる。	・生徒の実態に合わせて、HR毎に指導内容を工夫する。 ・道徳教育の全体計画を作成し、道徳教育を推進する。	・生徒の実態に応じた人権教育年間計画の作成 ・生徒アンケート「五條高校では、授業やHRにおいて、人権問題について考える機会が多い」 30年度 90.2% → 本年度<目標:90%以上> ・道徳教育全体計画に基づき実施し、成果の検証	B		・生徒アンケート「人権問題について考える機会が多い」が、昨年度90.2%から今年度88.7%に少し減少した。	・人権教育HRを年間指導計画に基づき、計画のとおり実施する。
	3-② ○ 生徒の人権意識を高める。	・「人権を確かめあう日」の啓発文書の文案作成を各分掌に依頼し、多様な視点から人権について考えさせる。	・毎月の「人権を確かめあう日」に生徒・保護者向けの啓発文書の発行 本年度<目標:10回以上>	A		・生徒・保護者向け啓発文書を10回発行した。 ・各分掌が作成し、多くの先生が携わった。	・保護者からの返信は5月以降ほとんど無く、文書が保護者により多く届くよう工夫する。
	1-② 4-① ○ 人権系の力量を高める。	・全学年のHRから人権係を2名ずつ選出、人権意識向上の活動を行う。 ・人権系の生徒対象に人権にかかわる講習会を開催する。	・「人権を確かめあう日」の啓発文書配布時に、係生徒が全校生徒向けにその趣旨の放送によるアピールの実施 ・ボランティア活動への積極的な参加 ・手話講習会を実施し、クラスで人権教育の中心として活動できる力量の育成 ・人権系の人権映画会での司会等の役割指導	B		・人権係は啓発文書の配布日に放送アピールを行った。 ・人権系の手話講習会を年2回実施した。 ・人権映画会で人権係による進行ができた。 ・ボランティア活動へはほとんど参加できなかった。	・生徒が作成した啓発文章を配付できるよう工夫する。 ・人権系の活動が学校全体への活動へと広げられるよう生徒会等と連携する。
文化図書部	2-① ○ 文化行事の充実を図る。	・文化行事の実施により、生徒の自主性や創造性を伸ばし、生徒自らが文化的な活動に取り組む意欲を醸成する。	・文化祭2日間の欠席者延べ総数の減少 30年度 延べ25人 → 本年度 <目標:10人以内> ・カルタ大会・おはなし会の実施	B	B	・文化祭は3部門での発表を盛大に実施できた。欠席は2日間で延べ15人であった。展示・演技部門で趣向を凝らした作品が多かったが、体育館行事は猛暑で健康面が懸念された。 ・カルタ大会やおはなし会も盛況であった。カルタ大会は文化委員・放送部員によって運営され生徒が主体的に活動できるものとなっている。	・文化祭の展示・演技部門の内容及び鑑賞方法について検討し、生徒がより積極的に参加できるようにする。芸術鑑賞会については現状では実施が難しく、実施日や会場について今後検討を重ねていく。 ・両会の実施方法についても再検討し、意義深いものにする。
	1-②/4-① ○ 図書館利用の促進を図る。	・図書館報・図書館だよりを発行し、図書館利用を促進する。 ・五條市立図書館との連携を図る。	・図書館利用者の増加 30年度 延べ9,849人 → 本年度 <目標:10,000人以上> ・貸出冊数の増加 30年度 1,689冊 → 本年度 <目標:1,800冊以上> ・五條市立図書館との合同企画の実施	B		・図書館利用者は1月31日現在で延べ8,417人で前年同時期より下回った。貸出冊数も1,399冊で前年同時期よりかなり下回る結果になった。 ・『図書館報』『図書館だより』の発行は順調であった。	・利用者の増加を図るため、今後も生徒の図書リクエストに応えるとともに、授業や部活動での図書館利用を促す。
	1-② ○ 読書活動の活性化を図る。	・生徒の読書の機会を増やし、自ら読書に取り組み、自らの生活を豊かなものにしようとする態度を養う。	・「読書の時間」を(月)と(木)のSHRに7分設定し、考査後1週間は、全ての日で実施。読書の習慣を身に付けさせる取組の推進	A		・「読書の時間」は計画通り実施できたが、読書への取組が不十分な生徒も見受けられた。「読書HR」用の集団読書テキストの利用は活発であった。	・学級文庫を更に充実させて読書に親しむ習慣を身に付けさせる。さらに、生徒によるPOPカード作りや教員による推薦図書紹介を充実する。
保健体育部	2-① ○ 体育活動を積極的に取り組む姿勢を養う。	・体育活動を通して生徒の心身の健全な発育と体力の向上、(脚力・忍耐力)を図るとともに、生徒を主体とした体育活動を実施する。	・球技大会、体育大会、耐寒金剛登山の実施 ・体育大会種目を生徒の希望を踏まえて一層の充実 ・各行事の参加率 本年度<目標:95%以上>	A	A	・球技大会、体育大会参加率それぞれ99.6%、99.3%と新種目を実施し、充実を図った。目標数値は達成したが、これからも種目の検討は必要である。	・生徒の実態を踏まえ、現行の競技だけでなく色々な種目を設定する。また実施する競技の数も厳選する。
	○ 体力の向上を図る。	・体育活動を通じて人と連なるコミュニケーション能力を培う。 ・体育の授業だけでなく自らの生活の中で体力向上をめざす運動習慣を確立させる。	・4月の体力測定、スポーツテストの結果を踏まえ全学年とも前年度の数値のアップ 本年度<目標:8項目中5項目以上数値アップ>	B		・スポーツテストにおいては、男子1年2項目、2年男子1項目、3年男子3項目と合計6項目向上しているが、女子についてはどの種目も現状維持または低下している。	・女子の運動部への参加が少なく、運動する機会が体育のみに限定されている生徒が多いと思われる。部活動の活性化や日々の生活では運動習慣を意識させる事が必要である。

環境整備部	○ 校内美化を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々の清掃活動により校内美化を推進する。</li> <li>大掃除を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者アンケート「五條高校では、清掃が行き届いており、校内がきれいに整備されている」 30年度 53% → 本年度&lt;目標:55%以上&gt;</li> </ul>	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>30分間の大掃除を3回行うことができた。</li> <li>保護者アンケート「五條高校では、清掃が行き届いており、校内がきれいに整備されている。」「と思う」42.9%、「どちらかといえばと思う」47.3%で、「思う」が目標に届かなかった。来年度には巻き返していきたい。</li> <li>清掃用具調べを予定通り4月に実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>来年度も始業式の日と定期考査最終日に、大掃除の時間を30分程度とるようにする。</li> </ul>
	○ 美化委員会活動を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>当番制で花の水やり活動を進める。</li> <li>通学路美化活動を実施する。</li> <li>花の植え替えをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>花の水やり活動の実施 本年度&lt;目標:毎日&gt;</li> <li>通学路美化活動の実施 本年度&lt;目標:1学期に1回以上&gt;</li> <li>花の植え替えの実施 本年度&lt;目標:2回以上&gt;</li> </ul>	A		<ul style="list-style-type: none"> <li>花の水やりは、予定どおり実施できた。</li> <li>通学路美化活動は、1・2・3学期とも予定どおり実施した。</li> <li>花の植え替えは予定どおり年2回実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本年度はたくさんの花を咲かせることができた。来年度も、花の水やり、通学路美化活動、花の植え替えを実施したい。</li> </ul>
	○ 防災教育を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難訓練等を実施することにより、防災意識を高め、災害から身を守る取組を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>火災や地震等を想定した避難訓練を5月に実施</li> <li>職員研修の実施</li> </ul>	A		<ul style="list-style-type: none"> <li>避難訓練は、5月に実施した。HRで防災・防火に関する資料を配付し、防災意識の育成を図った。</li> <li>7月・11月と2回奈良シェイクアウトを実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難訓練の有無に関わらず、防災・防火のHRを行いたい。</li> </ul>
広報企画部	4-③ ○ 学校ホームページや掲示板等を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校ホームページの充実を図り、保護者等にリアルタイムで学校の状況を伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間更新回数を増やし、情報のタイムリーな発信 本年度&lt;目標:120回以上&gt;</li> </ul>	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>1月末現在の更新回数は200回を超えており、学校行事や部活動結果などの情報をこまめに発信した。</li> <li>保護者アンケートにおいて、本校ホームページを「よく見ている」「ときどき見ている」は49.0%であった(昨年43.0%)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各分掌ホームページ系の協力で更新回数を増やすことができた。来年度も撮影、写真の選考等で協力をお願いしたい。</li> <li>タイムリーな更新と内容の充実を図る。</li> </ul>
	4-③ ○ 中学生やその保護者を対象に五條高校の魅力を情報発信する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校紹介パンフレット等の作成と発送を行う。</li> <li>オープンキャンパスを開催する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>『学校紹介』(4,000部)を改訂し、より魅力的なものへの改善</li> <li>これまで以上に中学校や保護者へ情報発信し、より多くの参加者の獲得 本年度&lt;目標:300名以上&gt;</li> </ul>	B		<ul style="list-style-type: none"> <li>今年もプロのデザイナーに依頼して作成したものを、中学校訪問等で活用した。</li> <li>本年度参加者は中学生と保護者等を合わせ354名(昨年269名)で、参加者アンケート結果も好評であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の魅力を伝える写真データを多く収集、作成する。</li> <li>中学校へ情報発信を増やし、当日の内容を更に魅力あるものにする。</li> </ul>
	4-① ○ 地域との連携を深める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「五高スポーツ教室」「五高カルチャー講座」「コットンプロジェクト」等を実施する。</li> <li>地域の行事に参加・貢献する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>近隣小中学校への案内を充実させ、より多くの参加者の獲得 本年度&lt;目標:120名以上&gt;</li> <li>校内で生徒のボランティアを募り、より多くの参加生徒の確保</li> </ul>	B		<ul style="list-style-type: none"> <li>「五高スポーツ教室」「五高カルチャー講座」(中学生)は延べ85名、コットンプロジェクトの参加者(小学生)は31名(1月末現在)であった。</li> <li>市内小中学校運動会、新町きつねの森フェス、御霊神社天平行列等のボランティアに、クラブ員や生徒会役員を中心に約120名の生徒が参加した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クラブ員や有志の生徒が主体的に活動することにより、小中学生はもちろん、高校生にとっても有意義な内容とする。</li> <li>ボランティア活動が進路をはじめ様々な面で自分にプラスになることを啓発し、有志の参加を増やす。</li> </ul>
第1学年	○ 規範意識と基本的な生活習慣を確立させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学校との違いを認識し五條高校の生徒としての自覚をもたせ、挨拶の励行と遅刻や欠席をせず授業に集中して取り組む姿勢を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遅刻の各クラス別年間総数の平均 本年度&lt;目標:15回未満&gt;</li> <li>欠席の各クラス別年間総数の平均 本年度&lt;目標:100日未満&gt;</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>2学期末時点で、クラス当たりの遅刻総数の平均は20回、欠席総数の平均は71日であった。</li> <li>挨拶が徹底できていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>挨拶の励行と時間を守る指導を徹底させる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動(課外活動)に参加させる。</li> <li>基礎学力を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習と部活動の両立を目指し、学校生活を意欲的に過ごす姿勢を育てる。</li> <li>授業を最大限に活用し、毎日の習慣とさせて、家庭学習の習慣を身に付けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動の加入率 本年度&lt;目標:80%以上&gt;</li> <li>平日に家庭学習を毎日する生徒の割合 本年度&lt;目標:70%以上&gt;</li> </ul>	A		<ul style="list-style-type: none"> <li>1月現在78.5%である。</li> <li>平日に少しでも家庭学習をする生徒は、7月の生徒アンケートで、87.4%、12月の調査で79.3%であった。</li> <li>期限内に課題提出のできない生徒がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>未加入の生徒も学校行事等で活躍する場面を作る。また部活動を継続するように働きかける。</li> <li>小テストや課題を必ず提出させるなどの取組を継続していく。</li> </ul>

	○ 進路目標を明確化させる。	・自らの興味・関心に基づき、適性を探り、進路についての考えを深め、確固たる進路目標をもたせる。	・LHR等の時間を利用し、第1学年の間に進路目標が定まった者の割合 本年度<目標:80%以上>	B		・1月の調査で93.3%が何らかの進路目標をもっている。	・HRや様々な行事を通して、更に具体的な進路目標を考え行動に移させる取組を継続していく。
第2学年	○ 規範意識と基本的な生活習慣を確立させる。	・中堅学年としての自覚をもたせ、遅刻や欠席をしないで授業に集中して取り組む姿勢を養う。 ・挨拶、言葉遣い等の礼儀作法を徹底させる。	・遅刻の各クラス別年間総数の平均 本年度<目標:35回未満> ・欠席の各クラス別年間総数の平均 本年度<目標:100日未満>	B	B	・挨拶、言葉遣い等に自覚をもつ生徒が増えてきているが、不十分な生徒もいる。 ・クラスあたりの遅刻総数の平均は31回、欠席総数の平均は110日。心身の不調による欠席、遅刻の多い生徒が相当数いる。	・指導を要する生徒については、カウンセリングを利用しながら学年全体で課題を共有し、声かけをしながら取り組む。
	○ 自主学習の定着を図る。	・課題の提出、小テストの合格に向けての準備を徹底させ、自主学習を習慣付ける。	・平日に家庭学習をほぼ毎日する生徒の割合 本年度<目標:70%以上>	C		・家庭学習については、定着しているとは言いがたい。1月の調査ではほぼ毎日学習している生徒は約60%である。 ・日々の課題提出のできない生徒が多い。	・提出物のできない生徒が多い。提出物の内容も含めて提出期限を守る指導を行っていきたい。 ・来年度の進路実現に向けて日々の学習の大切さを様々な機会を捉えて喚起していく。
	○ 具体的な進路目標を設定させる。	・あらゆる場面を通じて、主体的に自己の進路について考えさせ、より具体的な進路目標を設定させる。	・第2学年の間に、自分の志望校、志望職種が決定できた生徒の割合 本年度<目標:75%以上>	A		・進路を既に決定している生徒の数は増えており約93%である。	・HRやガイダンスを通して、継続的な指導が必要である。 ・来年度も大学等のオープンキャンパスなどにも積極的に参加するように促す。
第3学年	○ 規範意識と基本的な生活習慣を確立させる。	・社会人として必要な挨拶、言葉遣い等の礼儀作法、判断力、規範意識を身に付けさせる。また、残り少ない高校生活を無駄にせず、充実した毎日を過ごさせる。	・最高学年としての自覚と責任をもち、時と場に応じた言動の育成 ・遅刻の各クラス別年間総数の平均 本年度<目標:25回未満> ・欠席の各クラス別年間総数の平均 本年度<目標:100日未満>	C	B	・学年末時点で、遅刻総数は314回、クラス別平均回数は45回、欠席総数は769日、クラス別平均は110日であった。 ・少数の特定の生徒の欠席が多く見られた。	・遅刻数も欠席数も、非常に多かった。指導を要する生徒に対して根気強く指導していく。特に遅刻については寝坊やうっかりという遅刻についてはなくしていく。
	○ 自主学習の定着を図る。	・卒業後の進路を見据えて、授業、進学講習等に能動的に取り組ませるとともに、家庭においても自主的な学習を定着させる。	・平日に家庭学習をほぼ毎日する生徒の割合 本年度<目標:85%以上>	B		・1学期は、家庭学習をほぼ毎日する生徒が多くいた(65.6%)が、2学期になり、進路が決定するにつれて、学習時間が減少した(60.6%)。	・小テストや中間期末考査に向けての学習時間の確保を指導していく。 ・面接と小論文での受験が多くなっているが、基礎学力の大切さを説いていきたい。
	○ 進路目標を決定させ、その実現に向けて取り組ませる。	・具体的な進路目標を主体的に決定し、その実現に向けて効果的、能動的に取り組ませる。 ・一人一人の進路に応じて丁寧な指導を行う。	・就職、進学の決定率 本年度<目標:95%以上> ・生徒アンケート・保護者アンケート「一人一人の進路に応じて、丁寧な指導が行われている」 本年度<目標:85%以上>	B		・ほとんどの生徒が、年内に進路を決定した(96.6%)。就職者については、ほぼ全員が1回目以内で内定することができた。 ・保護者アンケートの結果は、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」をあわせて84.9%であった。	・早い時期から、AO入試が始まり、受験する生徒が増え、年内進路決定者も増加した。 ・生徒アンケートの結果ではあわせて65%程度なので、生徒に対しても引き続き丁寧な指導をしていく。